モノづくりにはストーリーが必要だ

株式会社浜野製作所／代表取締役

浜野慶一氏

はまの　けいいち

父の横顔

「焼き鳥食いに行くか?」「鮨でもどうだ?」――父からたびたび声をかけられるようになった。

家内工業の町工場がごみごみと建て込む東京・墨田区八広。浜野慶一の家も、父・嘉彦さんが金型・プレス加工業を営む町工場だった。金型職人が1人、プレス職人が1人、母・カツさんが経理を担当する株式会社浜野製作所の2階住居から階段を下りてきた浜野は、いつものジーンズにスニーカーというスタイルではなかった。紺のスーツを着込んだ浜野が、革靴に足を差し入れるのを見て、「どこに行くんだ?」嘉彦さんがきいてきた。

「就職活動だよ」浜野はこたえた。

東海大学政治経済学部に通う浜野の学生生活は、終わりに近づいていた。

嘉彦さんにはなにか思うところがあったらしい、よく息子を誘うようになった。

盃を傾けながら嘉彦さんはぽつりぽつり自分の仕事の話をした。職人気質の父の横顔を眺めながら、そこに誇りを持って働く男の姿をかい間見たような気がして、浜野はひそかに心を動かされた。

嘉彦さんからは家業を継げと口に出して言われたわけではなかった。だが、浜野は内定が出ていた会社への就職をとりやめ、板橋区にある板金工場で現場作業をはじめた。最低でも10年はそこで修行するつもりだった。

板金加工業への移行

けっきょく浜野は7年間その工場に勤めた。予定を早めたのは、嘉彦さんの病気のためだった。嘉彦さんは、がんの手術により声帯を切除、話すことができなくなってしまったのだ。

浜野は嘉彦さんのかわりに営業に出、病院のベッドにいる父に見積もり内容の確認をしてもらった。

やがて、入退院を繰り返していた嘉彦さんは1年ほどで死去し、浜野がかわって代表取締役社長に就任した。29歳だった。

浜野は父を失った感傷に浸っていられなかった。ただひとつ、これから会社をどうしてゆくかという思いだけが彼をとらえていた。

写真／引地信彦

モノづくりの現場を知るまえに敬遠されないよう、明るくて、きれいな工場をつくりたかった。

当時の浜野製作所には設備も技術もなかった。職人2人だけの小工場である。量産もので到底太刀打ちできるはずがなかった。浜野は小ロットで対応可能な精密板金に会社をじょじょにシフトしてゆく心積もりだった。それで、修行先も板金工場を選んだのだ。

浜野は板金加工部門の工場を建設すべく土地を取得した。それは自分にとって大いなる賭けだった。

だが、他方で浜野には着手しなければならないことが持ち上がった。経理を見ていたカツさんが、父とおなじくがんでこの世を去ったのである。余命宣告から2か月というあっけない死だった。

父を追うように逝った母。だが、やはり悲しみに暮れる余裕はない。広告の裏紙をつかっていたような帳簿管理をパソコンによる経理システムへと一から構築しなければならなかった。

現場でモノづくりの修行はしてきたが、それまで経理は母に任せきりだった。そうして、これは後に、ひじょうに大きな付けとなって浜野に降りかかってくることになるのだ。

焼 失

2000年6月30日、浜野は工場で来客と打ち合わせをしていた。話をしながら、きょうはやけに暑いなと思っていた。ふと見やると壁がめらめらと燃えてゆくではないか。つづいて「火事だー!!」の声が轟き渡った。火元はすぐ近所の住宅建設現場だった。

浜野は客を外に誘導すると、燃え広がる炎が自分の工場を包むのを呆然と眺めていた。だが、それも一瞬だった。「きょう納める製品がある!」急いで取引先に連絡し、納期を延ばしてくれるよう頼んだ。つづいて不動産屋に駆け込むと、店のまえを消防車がサイレンをけたたましく鳴り響かせ走り抜けていく。「なにやらにぎやかだね」のんびりと声をかけてきた店主に向って、「燃えているのはうちだ！　至急、貸し工場をさがしてほしい!!」浜野は言った。店主の顔色がかわった。そして、さっそくいくつか物件を紹介してくれた。

浜野は自転車を走らせて工場を見てまわった。家主のひとりが、「若いし、たいへんだろう。家賃を負けてやろう」と言ってくれた。うれしかった。浜野は財布に入っていた2枚の1万円札のうち1枚を手付けに支払うと、火事場に戻った。

自分がこれまで育った自宅でもある浜野製作所は焼失していた。

遠い花火

浜野製作所は仮工場で営業を再開した。火事の当日、納期を延ばしてもらった取引先には、迅速な対応を評価され、新たに1.5倍の受注をもらった。だが、苦難はつづく。

火事の翌月、念願の板金工場が落成したものの、建屋のなかはからっぽだった。仕事もない。会社の未来を託した新工場は、いまや大いなる負荷となって浜野にのしかかってきていた。火災の後処理と仮工場の体制を整えることに追われ、板金部門の営業にはまったく着手できないでいた。

そんなある日、黒い背広に身を包んだ強面の男たちが浜野のまえに現れた。借地権の手続きが不履行になっているので焼失した工場の土地から出てゆけと半ば強引に言う。経理のいっさいをカツさんが行っていたため、浜野は工場の建っていた土地が借地であったことさえ知らなかったのだ。

さらに火元となった建設現場を取り仕切っていた住宅会社が倒産。いっさいの補償を受けられないという追い討ちを受けた。

日中は仮工場での作業に追われ、夜になると火事場から運んできた水を浴びた300型の金型を金ブラシで磨いてサビを落とす。「あそこはもうだめだ。このまま潰れるんじゃないか」という噂が浜野の耳にも届いていた。

浜野は隣で黙々と金型を磨いている金岡裕之さん（現・常務）のほうを向いた。浜野より５歳若い金岡さんとは、修行時代の板金工場で知り合った。彼は板金部門を手伝うためにきてくれたのだが、給料もままならない。

隅田川の花火大会のぼんぼんという音が聞こえていた。

「悪いな」浜野は声をかけた。ほんとうなら、板金工場の竣工祝いもかねて、花火の見える店で一杯やろうと計画していたのだった。

「焼き鳥食いに行くか?」「鮨でもどうだ?」そんな父の声がよみがえる。

――親父、こんどばかりはまいったよ。「もしかしたら、もう持ち直せないかもしれない」浜野はめずらしく弱音を吐いた。「あんたといっしょに仕事がしたいだけなんだ。カネはあるときでいい。いっしょにがんばろう」金岡さんの言葉に、浜野は金型を磨く手元がぼんやりと滲んで仕方がなかった。

モノづくりの幸福

工作機械を入れ、いよいよ板金工場の操業を開始した。すくない仕事のなかで、浜野は３つの特色があることに気がついた。ひとつは、他社よりも安くやってほしいというもの。しかし、これは願い下げにしたいところだった。もうひとつは、他社ではできないからやってほしいというもの。これは金額はいいが、そうたくさんの件数は見込めない。そして、もうひとつが短納期――これだ、これを売り物にしたい!

短納期を実現するにはどうしたらよいか？　かんたんなことだ、働きづめに働くのだ。浜野と金岡さんはそれこそ寝ずに働いた。

受注が増えてくると新たにひとを雇った。しかし、こんな無理な体制ではせっかく入った従業員も1人また1人と辞めてしまう。

短納期を実現する社内システムをつくる必要があった。浜野は生産管理・工程管理を整えた。

あの火事から2年後の2003年6月、浜野製作所は板金工場の向かい側にプレス・金型工場を新規設立した。これを機会に、板金工場を本社板金工場と改めた。どちらの社屋も外壁はカラフルに彩られている。「建築資金がなかったので、せめて色合いだけでもと思いました。明るくて、清潔で、きれいな工場をつくりたかった。モノづくりの現場を知るまえに若者が敬遠することのないようにね」そう語る浜野は、本社に早稲田大学地域経営ゼミ立ち寄り所を開設。産学連携活動を行うとともに多くの大学からインターン生を受け入れている。

「モノづくりにはストーリーが必要」というのが浜野の持論だ。部品生産はエンドユーザーの姿が見えにくい。だから浜野は、従業員らに自分たちがつくるモノの背景をできるだけ語って聞かせるようにしている。そんなとき、会社のホームページを通じて、個人客から単品のパイプ加工の依頼があった。

かなり手の込んだ細工が必要な仕事だった。事情をきくと、その依頼人の男性はぽつりぽつり話しはじめた。自分に障害のある娘がいること。パイプは彼女の寝台に用いるものだということ。「ほんとうは自分が娘とかわってやりたい。しかしそれができないから、娘が眠るときにすこしでも快適にしてやれたら」

浜野にも子どもがいる。ひとごとではなかった。その話を従業員にも伝えた。みな静かに聞き入っていた。涙ぐんでいる者もいる。この瞬間、社員全員の気持ちがぐっとひとつに固まったのを感じた。

彼らは行動を開始した。ただつくっているのではない、「もうちょっとこうしたほうが」という工夫をみんなで出し合っていた。そうして、つくることのたのしさ、たいせつさをみなが分かち合っていた。

モノづくりの幸福ここに極まる。

（取材・文＝上野（うえの）　歩（あゆむ））

(日)明るい赤壁の工場は、温かな下町の家々に囲まれている。
(月)現場スタッフへ、今回のモノづくり背景を説明する浜野社長。
(火)アンティーク雑貨で使用されている人気の製品。手前はなんとタブレットケース。

Campany Profile

株式会社 浜野製作所

所在地：東京都墨田区八広4-39-7
TEL：03-5631-9111　FAX：03-5631-9112
担当者：代表取締役　浜野慶一

事業内容：金属プレス金型製作、金属プレス加工部品、精密板金加工、レーザー加工、試作品製作

エミダス会員情報：
http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?77425

会社情報